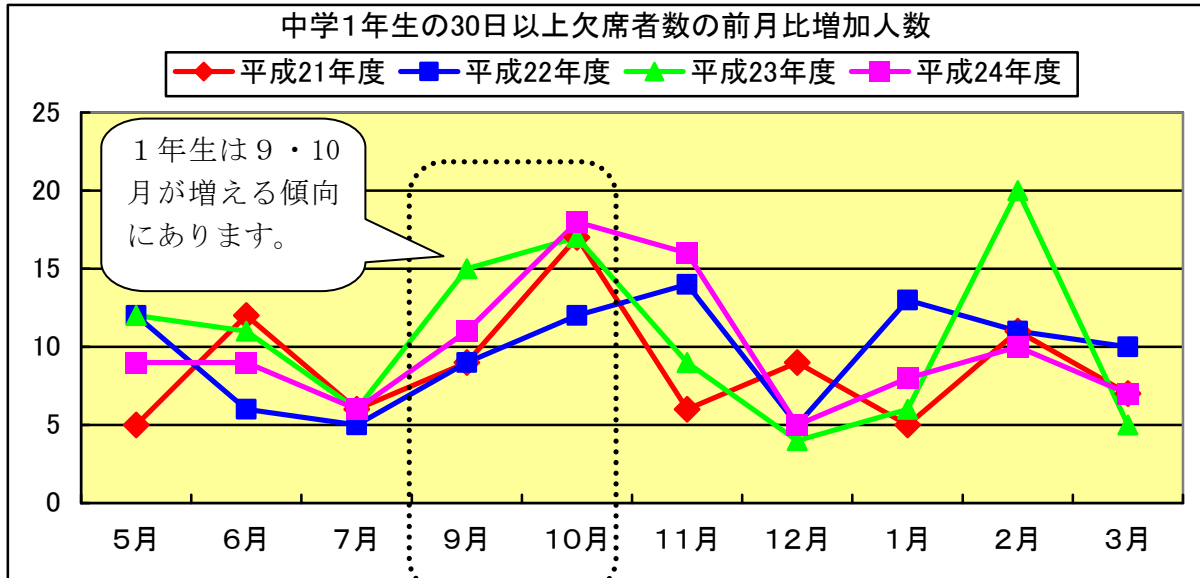


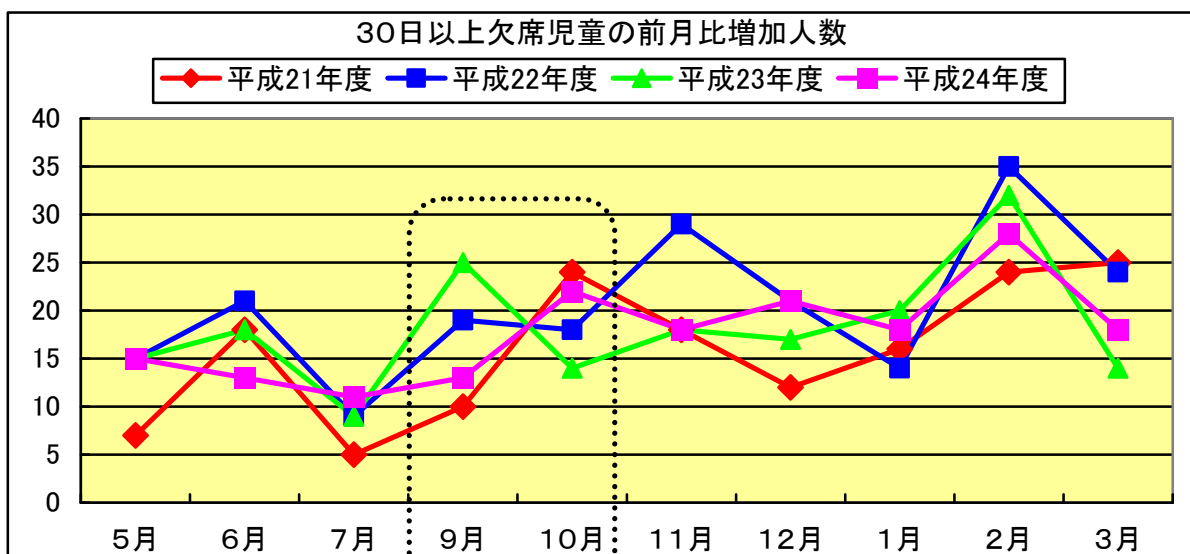
2学期の取り組みが1年後の出席状況を決める

中学1年生は体育祭までがポイント



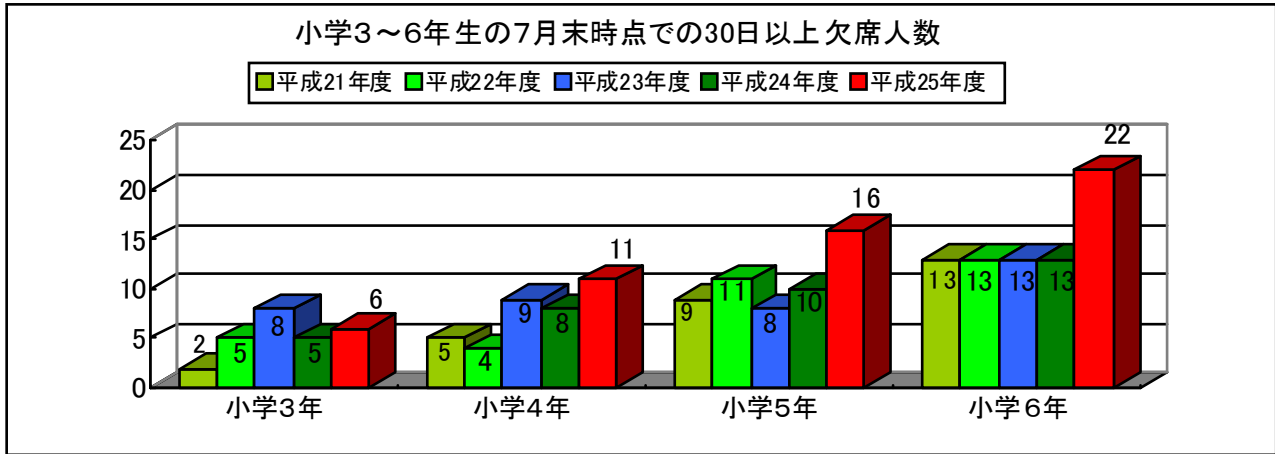
「楽しい学級・学校づくりのために」第37号(平成23年11月15日発行)で取りあげたように、中学校で30日以上欠席生徒が増える時期は、年度初めの5・6月が圧倒的に多く、次に夏休み明けの9・10月が多くなる傾向にあります。その増加人数を学年別に調べてみると、中学2・3年生は5・6月に休み始める子が多いのですが、**1年生だけグラフの形が違い、9・10月に休み始める子が多い**ことが分かりました。

小学校は1学期の欠席状況の確認からスタート



小学校で30日以上欠席児童が最も増えるのは2月で、その次に多いのが2学期半ばの9月・10月です。この時期に欠席30日を超える児童は、**1学期から月に5日程度ずつ欠席していたものが累積したケースが多い**ですが、夏休み明けから休み始めるケースも少なくありません。

気になる本年度の小学6年生



上のグラフは小学3～6年生の7月末時点での30日以上欠席人数を表したものです。これを見ても、**6年生が例年に比べ大きく増加**しています。その要因としては、前年度も30日以上欠席していた児童が本年度も継続して休んでいるケースが目立ちます。

また、小学校全体でも継続して休むケースが増えており、休み始めると長期化する傾向がうかがえます。



2学期スタートのポイント

- ☆ 毎日の出席確認…遅刻・早退も含め、出席状況に変化がないか確認。保健室の利用状況なども情報共有するようにしましょう。**最初の1週間が肝心**です。
- ☆ 再スタートを……「あったかプログラム」などを使い、夏休み中の出来事などを語り合うような活動を行うことで、**集団の一員であることを再確認**しましょう。また、学習規律についても最初の1週間で再度オリエンテーションを行い、落ち着いて学習に取り組めるようにしましょう。
- ☆ 学級経営の改善…「あったかアンケート」や「Q-U」等の結果から**学級の強みと弱みを把握**し、子どもたちが能動的に取り組む学級づくりを行いましょ。
- ☆ 日常的な観察……夏休みの様子をつかむようにしながら、**子どもたちに変化がないか見ていく**ようにしましょう。特に、前年度までに30日以上欠席したことがある児童生徒が休み始めた時は、迅速な対応が必要です。
- ☆ 欠席に敏感に……休み始めた子どもはもちろん、**月に数日ずつ休んでいる子どもへのきめ細かな対応**を行いましょ。特に、月に数日ずつ休んでいる子どもは連続して欠席していないため、対応が遅れがちになる傾向があります。後々、本格的に休み始めることにつながりますので丁寧な対応が必要です。

夏休み明けにおすすめの「あったかプログラム」

- ◎ アドジャントーキング (あったかプログラム P42～43)
ねらい：活動を通して学期始めの緊張をほぐす。
- ◎ 体験したことビンゴ (あったかプログラム P48～49)
ねらい：みんなの夏休みのようすを聞き合い、お互いを分かり合う。